

平成25年度第1回奈良県がん予防対策推進委員会（精度管理部会）

議 事 要 旨

日時：平成25年10月29日（火） 午後2時～4時

場所：奈良県立医科大学 蔵書会館 2階研修室

出席者：

（委員）伊藤高広、大石元、木村弘、高野由子、中島祥介、藤井久男、森田隆一、山科幸夫

概要：

（1）平成25年度がん検診精度管理調査結果について

（2）その他

平成23年度市町村がん検診実施状況（確定値）および総括表について

平成23年度・24年度市町村がん検診受診率について

各々の項目について事務局から報告がなされた後、意見交換が行われた。

<主な意見交換内容>

- ・市町村がん検診精度管理調査結果で、奈良市が3年間連続D判定である理由は？
→がん検診の電子台帳システムが導入されていなかったため。
→電子台帳システムが導入される次年度から改善する可能性がある。
- ・精密医療機関の登録から奈良医大が外れた理由は？
奈良医大から市町村へ精密検査結果が返ってこない理由は？
→奈良医大では病院受診者の検査だけでも1～2ヶ月待ちの状況であり、精検患者を受け入れるキャパシティがなかった。
→奈良医大では検診の精密検査に対応したシステムが構築されていない。
（精検依頼書兼結果報告書）を持参し奈良医大を受診した場合、報告書が受付で保存されたままである場合やカルテのポケットに入ったままなど様々であり、担当医に結果報告の認識がない。
窓口を一本化し、地域連携室が一括して管理することで解決する可能性がある。
- ・登録精密医療機関には、精検結果の返却への協力依頼を文書にて通知しているが、3次医療機関には、県（本委員会）として、どう関わっていけば改善するか。
→奈良医大は、がん拠点病院としての役割もあり、検診機関としてどこまで機能できるかには限界があるが、難病登録（特定疾患）を例にみるように、電子カルテ上でのシステムを整えれば、管理しやすい。（入力操作ができるフォーマットがあればよい。）
- ・がん検診従事者研修会について、肺がん検診についてはどのような形式で実施するか。
→要精検率が15%近いデータを示している市町村については非常に問題がある。読影医の能力を反映していると考えられる。専門医師を講師に招き、医療機関だけでなく読影に携わる医師が広

く参加できるような形式での研修会を行う必要がある。

- ・胃がんについては、既に読影会や勉強会を実施しているが、読影に関しては医師だけでなく技師も関与している。技師を対象にした勉強会も必要では？
→胃がん検診従事者研修会を、年に数回実施している。今後、技師にも参加を義務付けるべきである。
- ・大腸がんについては研修会を実施しなくてもよいのか？
→大腸がんについては、関連する研究会等がすでに実施されているため、そこに一次検診担当医療機関にも参加を促すことができれば、新たに開催する必要はないと考える。
- ・大腸がん検診の精検受診率が異常に低い（40%や 50%）のは問題である。この精検受診率については、一次検診機関の対応が関与している可能性がある。
→一次検診機関は精密検査への受診勧奨をすべきである。
- ・個別検診の医療機関の調査も課題であるが、チェックリストの内容を個別検診の医療機関にも周知しておく必要がある。
→一次医療機関は市町村が把握しており、通知等も現在は市町村から発送されている。県から市町村に一次医療機関への通知を徹底するよう依頼することは可能である。
- ・精密医療機関の登録の見直しについては、胃がん・肺がんを中心として実施してもよいのか？
→登録の見直しが必要である。見直しをするにあたり、従事者研修会や関連するような研究会に、年に数回の参加を義務付けるべきではないか。
- ・委員会の内容について、全市町村の現場に情報提供してもらいたい。
→ホームページには掲載しているが、全市町村の現場にも情報提供していきたい。

以上の討論をふまえて今後、以下の項目を実施することが決定された。

- ・精度調査結果にもとづいた市町村、検診機関へ文書通知の実施
- ・精密検査登録機関の現状調査の実施
- ・肺がん検診に関する勉強会の開催
- ・個別検診機関への指導：市町村から個別検診機関へチェックリストの内容を周知
- ・がん検診従事者講習会の開催
- ・精密検査登録機関の見直し：勉強会や検討会への参加の義務付けを検討
- ・がん検診担当医療機関（一次検診機関、精密検査機関）に対し、関連する研修会、研究会への参加を積極的に促すための文書通知
- ・三次医療機関に対し精検結果の返却の協力依頼のための文書通知